

I 調査の概要

1 調査の趣旨

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査対象

区 分	調査実施校数 (校)			調査実施者数 (人)		
	国	県	市	国	県	市
小学校第6学年	20,458	355	142	1,108,272	25,456	10,836
中学校第3学年	9,890	181	64	1,027,458	22,564	9,273

(広島県・広島市は、国・広島県の内数である。)

3 調査期日

平成25年4月24日(水)

4 調査内容

小学校第6学年

① 教科に関する調査

- ・ 国語、算数の、主として「知識」に関する問題〔A問題〕
- ・ 国語、算数の、主として「活用」に関する問題〔B問題〕

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童質問紙調査

③ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

中学校第3学年

① 教科に関する調査

- ・ 国語、数学の、主として「知識」に関する問題〔A問題〕
- ・ 国語、数学の、主として「活用」に関する問題〔B問題〕

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する生徒質問紙調査

③ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する学校質問紙調査

5 語句の説明

語 句	説 明
正答	正しい答え
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	○ 国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数) ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率

Ⅱ 教科に関する調査の結果と考察

1 全体的傾向

【A問題】主として「知識」に関する問題の結果

国語においては、小学校では、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すことに課題があり、中学校では、目的に応じて伝えたい内容を適切に整えて書くことに課題が見られる。

算数・数学においては、小・中学校ともに、比例や一次関数など、2つの数量関係を考察することに課題が見られる。

【B問題】主として「活用」に関する問題の結果

国語においては、小学校では、目的に応じて、複数の文章を比べて読むことに課題があり、中学校では、本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題が見られる。

算数・数学においては、小・中学校ともに、具体的な事象について、数学的に解釈し、事柄が成り立つことを説明することに課題が見られる。

今後、より一層、基礎的・基本的な知識や技能を確実に定着させるとともに、これらを活用する力の育成に努める必要がある。

(1) 各教科の平均正答率

【小学校】

(%)

教科	国語						算数					
	A問題			B問題			A問題			B問題		
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
平成20年度	65.4	67.8	67.3	50.5	53.3	52.8	72.2	74.3	73.9	51.6	53.6	54.3
平成21年度	69.9	72.9	71.9	50.5	53.8	53.2	78.7	81.3	80.7	54.8	56.6	57.1
平成25年度	62.7	65.8	63.8	49.4	52.7	51.7	77.2	79.2	77.9	58.4	61.3	59.7

【中学校】

(%)

教科	国語						数学					
	A問題			B問題			A問題			B問題		
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市
平成20年度	73.6	74.1	73.9	60.8	60.9	60.2	63.1	64.1	63.8	49.2	48.7	47.7
平成21年度	77.0	77.6	76.6	74.5	74.8	73.7	62.7	62.9	62.3	56.9	56.2	55.1
平成25年度	76.4	76.7	75.6	67.4	69.2	68.0	63.7	64.8	63.7	41.5	43.5	41.7

(2) 正答率ごとの児童生徒の割合

【小学校】

<広島市の状況>

教科	国語A			国語B			算数A			算数B		
	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20
正答率80%以上の割合(%)	32.8	37.7	30.6	20.8	19.7	18.8	61.8	61.0	41.5	34.4	15.2	13.7
正答率60%以上80%未満の割合(%)	38.4	41.3	37.2	27.0	30.6	21.0	25.9	26.6	36.8	30.7	33.9	32.5
正答率30%以上60%未満の割合(%)	24.8	17.5	27.0	34.3	35.8	38.5	11.2	10.8	19.2	23.4	34.1	40.1
正答率30%未満の割合(%)	4.0	3.5	5.2	17.9	13.8	21.7	1.1	1.6	2.5	11.5	16.9	13.7

<全国の状況>

教科	国語A			国語B			算数A			算数B		
	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20
正答率80%以上の割合(%)	30.9	32.7	28.2	18.2	15.6	15.6	60.4	55.6	38.6	32.1	12.2	11.1
正答率60%以上80%未満の割合(%)	38.3	43.5	36.6	26.0	30.1	20.6	26.4	29.7	36.5	31.2	32.4	30.5
正答率30%以上60%未満の割合(%)	26.4	20.0	27.9	35.7	38.4	40.0	12.0	12.7	21.6	24.6	36.4	42.2
正答率30%未満の割合(%)	4.4	3.9	7.3	20.1	15.9	23.8	1.2	2.0	3.3	12.1	19.0	16.2

【中学校】

<広島市の状況>

教科	国語A			国語B			数学A			数学B		
	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20
正答率80%以上の割合(%)	50.1	53.7	39.1	52.0	55.9	33.1	29.3	26.9	33.3	9.8	24.8	13.9
正答率60%以上80%未満の割合(%)	35.5	30.1	43.9	25.0	20.4	27.6	36.4	29.8	26.7	24.5	24.7	25.6
正答率30%以上60%未満の割合(%)	12.4	13.8	14.6	14.0	15.7	21.1	25.4	35.0	28.9	30.9	30.2	32.4
正答率30%未満の割合(%)	2.0	2.5	2.4	9.0	8.1	18.2	8.9	8.3	11.1	34.8	20.4	28.1

<全国の状況>

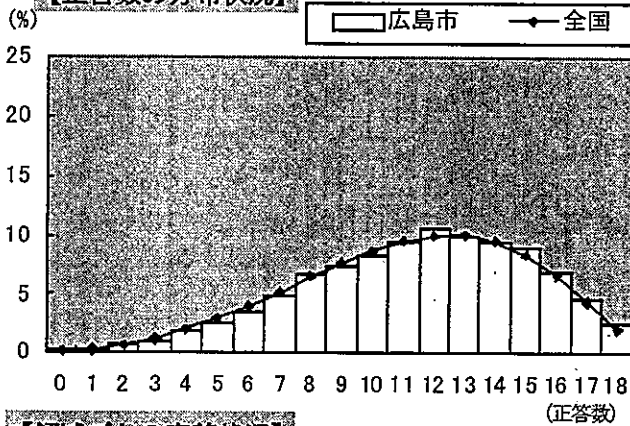
教科	国語A			国語B			数学A			数学B		
	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20	H25	H21	H20
正答率80%以上の割合(%)	52.0	54.6	39.0	50.5	56.9	34.3	29.4	28.1	33.1	9.6	28.0	15.6
正答率60%以上80%未満の割合(%)	33.6	29.4	42.8	25.5	20.4	27.4	36.1	29.1	25.4	24.3	24.1	25.9
正答率30%以上60%未満の割合(%)	12.6	13.5	15.5	14.8	14.9	20.4	25.5	34.4	29.2	30.8	29.1	32.1
正答率30%未満の割合(%)	1.8	2.5	2.7	9.0	7.7	17.9	9.0	8.5	12.3	35.3	18.8	26.4

2 各教科の調査結果の分析及び考察

【小学校国語】

国語A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	62.7	63.8
話すこと・聞くこと	43.2	42.5
書くこと	53.0	53.0
読むこと	60.1	60.3
伝統的な言語文化・国語の特質	62.6	64.1

【問題形式による定着状況】

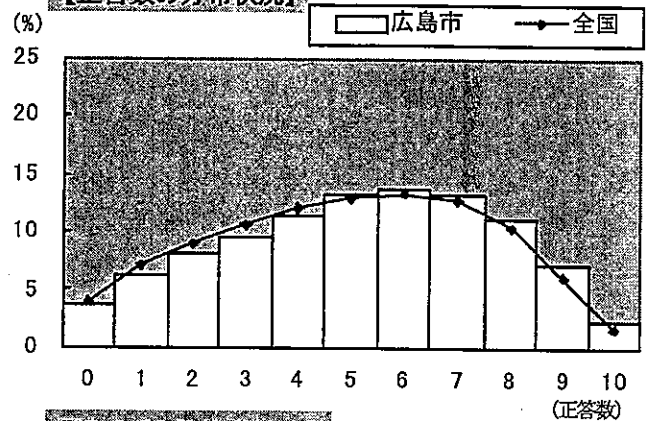
問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	66.3	66.8
短答式	61.9	63.4
記述式	44.9	45.8

定着状況等

- ◆ 「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、平均正答率が60%を全国平均を上回っているものの、基礎的・基本的な知識・技能をさらに定着させる必要がある。
- ◆ 「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が50%を下回っており、スピーチの表現を工夫することに課題がある。
- ◆ 問題形式別では、全ての問題形式において全国平均を上回っているが、記述式の平均正答率は50%を下回っている。

国語B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	49.4	51.7
話すこと・聞くこと	64.8	67.6
書くこと	43.8	47.1
読むこと	47.9	48.9
伝統的な言語文化・国語の特質	63.8	68.4

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	59.7	61.7
短答式	45.9	48.5
記述式	42.5	44.5

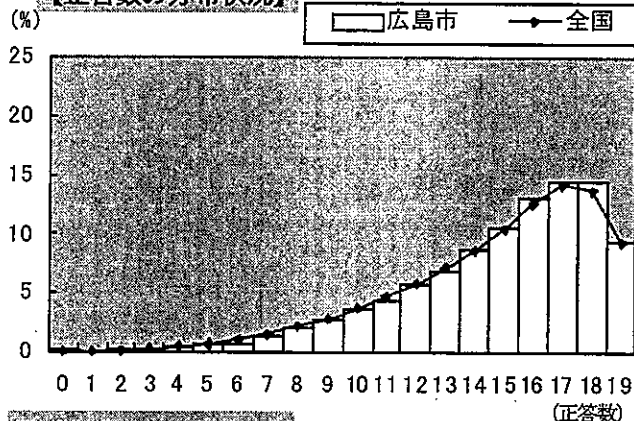
定着状況等

- ◆ 平均正答率が全国平均を上回ったが、全ての領域において70%を下回っているため、引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を活用する能力を伸ばす指導の充実が求められる。
- ◆ 「書くこと」については、複数の内容を関係付けながら自分の考えを書くことに、「読むこと」については、推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えることに課題がある。
- ◆ 問題形式別では、全ての問題形式において全国平均を上回っているが、短答式・記述式の平均正答率は50%を下回っている。

【小学校算数】

算数A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	77.2	77.9
数と計算	80.2	82.1
量と測定	68.3	68.0
図形	72.5	72.4
数量関係	83.4	83.4

【問題形式による定着状況】

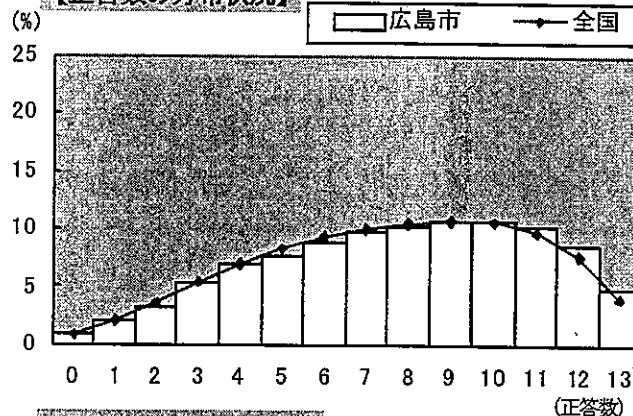
問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	68.2	67.5
短答式	83.6	85.4
記述式	—	—

定着状況等

- ◆ 「数と計算」、「数量関係」の領域において、平均正答率が80%を上回っている。
- ◆ 「量と測定」については、平均正答率が70%を下回っており、特に単位量当たりの大きさについての基礎的・基本的な知識及び技能の定着に課題がある。
- ◆ 問題形式別では、短答式の平均正答率は約80%であるが、選択式の平均正答率は80%を下回っている。

算数B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	58.4	59.7
数と計算	48.3	51.3
量と測定	56.0	56.9
図形	79.3	79.8
数量関係	54.9	55.6

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	73.8	74.3
短答式	61.9	62.0
記述式	43.2	46.2

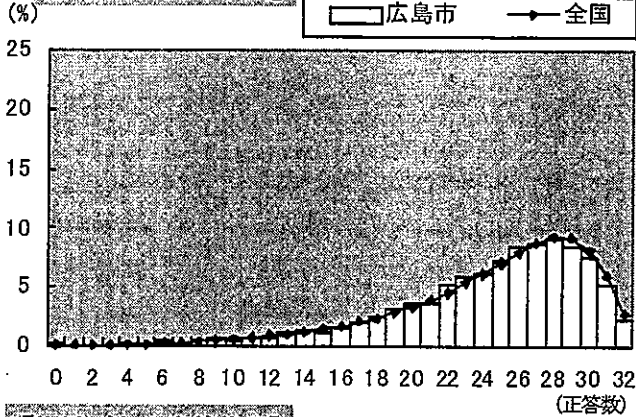
定着状況等

- ◆ 「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の領域において、平均正答率が60%を下回っている。
- ◆ 「数と計算」については、平均正答率が4領域で最も低くなっており、特に与えられた情報を整理し、筋道を立てて考え、与えられた条件に当てはまるものを判断することに課題がある。
- ◆ 問題形式別では、記述式の平均正答率が約40%であり、筋道立てて考え、与えられた条件や問題を解決する過程を式や言葉等で表現し、根拠を明確にして説明することに課題がある。

【中学校国語】

国語 A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	76.4	75.6
話すこと・聞くこと	77.6	77.6
書くこと	64.5	64.2
読むこと	80.0	79.6
伝統的な言語文化・国語の特質	77.5	76.4

【問題形式による定着状況】

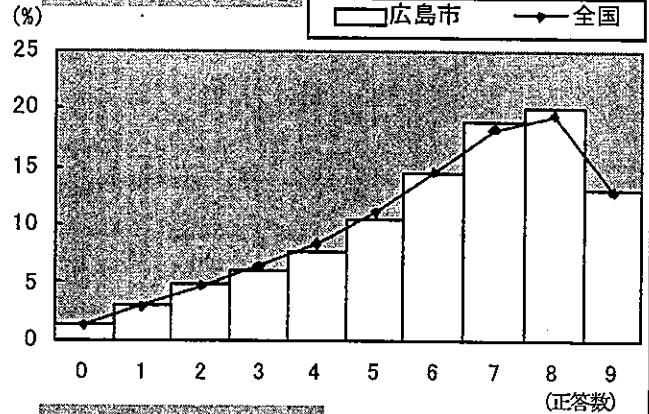
問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	77.3	76.4
短答式	74.7	74.3
記述式	—	—

定着状況等

- ◆ 「書くこと」以外の領域については、平均正答率が70%を上回っているものの、基礎的・基本的な知識・技能を更に定着させる必要がある。
- ◆ 「書くこと」については、平均正答率が70%を下回っており、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことや相手や目的に応じて文章を整えて書くこと等に課題がある。
- ◆ 問題形式別では、選択式・短答式ともに平均正答率が75%程度である。

国語 B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	67.4	68.0
話すこと・聞くこと	—	—
書くこと	62.7	63.0
読むこと	67.8	68.5
伝統的な言語文化・国語の特質	64.6	64.3

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	68.2	69.3
短答式	77.5	77.1
記述式	62.7	63.0

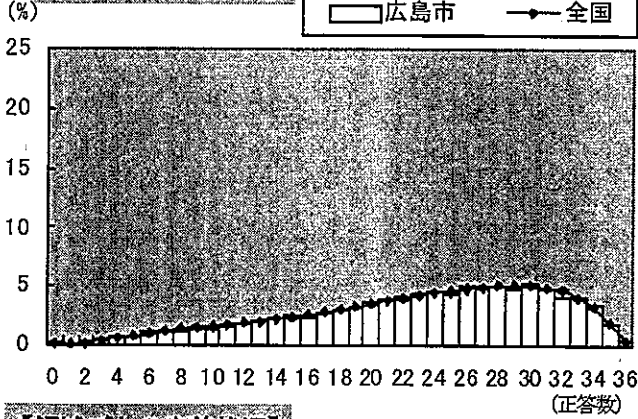
定着状況等

- ◆ 教科全体として全国平均を上回ったが、全ての領域で70%を下回っており、引き続き、基礎的・基本的な知識・技能を活用する能力を伸ばす指導の充実が求められる。
- ◆ 「読むこと」については、本や文章などから必要な情報を集めること、「書くこと」では材料を集めながら自分の考えをまとめることに課題がある。
- ◆ 問題形式別では、短答式が75%を上回ったが、選択式・記述式の平均正答率が70%を下回っている。

【中学校数学】

数学A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	63.7	63.7
数と式	72.7	73.6
図形	64.6	64.3
関数	58.7	57.9
資料の活用	46.8	47.5

【問題形式による定着状況】

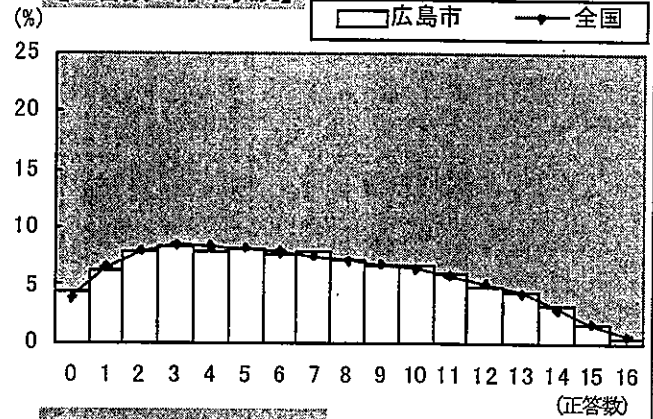
問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	61.8	61.8
短答式	65.5	65.6
記述式	—	—

定着状況等

- ◆ 正答率の分布の山がはっきりしておらず、ばらつきが大きい。
- ◆ 「数と式」の領域は70%を上回っている。しかし、「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域は、70%を下回っており、中でも「資料の活用」は50%を下回っている。代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることにより課題がある。
- ◆ 問題形式別では、選択式・短答式ともに平均正答率が70%を下回っている。

数学B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)	
	全国	広島市
教科全体	41.5	41.7
数と式	41.7	40.5
図形	44.8	45.2
関数	40.0	41.7
資料の活用	42.2	41.4

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)	
	全国	広島市
選択式	43.3	43.3
短答式	55.8	55.7
記述式	30.3	30.8

定着状況等

- ◆ 「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のいずれの領域も平均正答率が50%を下回っており、知識・技能を活用する力に課題がある。
- ◆ 「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のいずれの領域の平均正答率の変化が見られない。事象を数理的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ◆ 問題形式別では、特に記述式の平均正答率が40%を下回っており、筋道立てて考え、式や言葉・図等で表現し、根拠を明確にして自分なりに説明することに課題がある。

(2) 小学校算数

正答率が60%を下回った問題

● 問題

算数B 2(3)

(3) 実験3では、おもりの重さを40gにもとし、ふりこの長さを変えて10往復する時間を調べ、下の表にまとめました。

実験3の結果

ふりこの長さ (cm)	25	50	75	100
10往復する時間 (秒)	10	14	17	20

この結果から、次のことがわかります。

ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていないので、ふりこの長さとも10往復する時間は比例していません。

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。

● 正答及び正答率等

正 答	正答率	誤答率	無答率
<p>正答の条件</p> <p>次の①、②、③、④のすべてを書いている。</p> <p>① 基にするふりこの長さ比べられるふりこの長さ</p> <p>② 基にするふりこの長さ比べられるふりこの長さの関係を示す数と言葉</p> <p>③ 基にする10往復する時間比べられる10往復する時間</p> <p>④ 基にする10往復する時間比べられる10往復する時間の関係を示す数と言葉</p>	38.3	43.7	18.0
<p>正答例</p> <p>・ふりこの長さが25cmから50cmと2倍に変わったとき、10往復する時間は10秒から14秒で2倍になっていない(1.4倍になっている)からです。</p>			

● 設問のねらい及び特徴

ねらい	特 徴
示された実験の結果から、ふりこの長さとも10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く。	表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述する。

● おもな誤答とその要因

主な誤答	要 因
②④だけの記述	表から数値を適切に取り出すことができていない。 数と言葉を用いて記述することができていない。

正答率が60%を下回った問題

(3) 中学校国語

問題

調べる手段 1 学校図書館 2 インターネット 3 その他

三 この文章を読んで「かるた」について分かったことの中から、興味をもったことについてさらに調べることにしました。次のア、イ、ウについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に行き加えたりしてもかまいません。

ア この文章を読んで、「かるた」について分かったことを一つ書きなさい。

イ アについて、さらに調べたいことを一つ書きなさい。

ウ イを調べる手段を、次の①から③までの中から一つ選び、どの「調べる手段」を選んででもかまいません。①、その手段を用いて「どのよう」にして情報を集めるのか、を二十字以上、五十字以内で書きなさい。なお、「3 その他」を選んだ場合は、あなたの考える調べる手段を解答用紙の()に書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1から5は、段落の番号を表します。)

1 皆さんは、「犬も歩けば棒にあたる」、「花より団子」、「良薬は口に苦し」といったことわざを聞いたことがありますか。これらは「いろはかるた」に取り上げられているものです。「いろはかるた」は、いろはにほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ、うみのおくやま、けふこえて、あさきゆめみし、ふひもせすの四十七字に「京」の字を加えた四十八字を最初の字にしたことわざからできています。四十八のことわざを字札にしたものを読み、ことわざの意味などを表した絵札を取りります。

2 江戸時代から遊び道具の一つとして親しまれてきた「いろはかるた」ですが、一つ一つのことわざに着目してみると生活に役立つ知恵が多く含まれていることが分かります。近代の有名な作家である芥川くた川がわ龍りゆうの介すけも、私たちの生活に欠くことのできない思想は、「いろはかるた」に全すべて盛り込まれているのかもしれないといった内容を書き残しています。子どもにとっては少々難しいことわざでも、遊びを通して楽しみながら身近に感じたり学んだりすることができるのが「いろはかるた」のよさの一つだと言えます。

3 「いろはかるた」と一口に言っても、種類ではありません。例えば、「い」で始まることわざでも、「犬も歩けば棒にあたる」、「石の上にも三年」、「二を聞いて十を知る」、「急がば回れ」など、時代や地域によって様々なものが取り上げられています。また、「犬も歩けば棒にあたる」は、生活や社会の状況によって異なる解釈が生まれています。それは、絵札を比較するとよく分かります。

4 ところで、皆さんはかるた遊びをしたことがありますか。お正月に家族で楽しむものの一つとして思い浮かべる人もいるのではないのでしょうか。「いろはかるた」で遊んだ経験はなくても、郷土をテーマにしたかるたや、漫画などのキャラクターが登場するかるたで遊んだことはありませんか。現在は、「郷土かるた」や「環境かるた」、「四字熟語かるた」など様々なものがあります。テーマや内容は違っても、絵札と字札という形式で作られていることは共通しています。

5 現代のかるたが「いろはかるた」から受け継いだのは、形式だけではありません。例えば「郷土かるた」で遊ぶことを通して、私たちは生まれ故郷に伝わる昔からの風習や地域の特徴などを学んだり、「環境かるた」で遊びながら環境への取り組みを知ったりすることができます。そう考えると、「かるた」は形式とともに、その内容も含めて私たちの生活と密接に関わりながら生き続けていると言えます。

正答及び正答率等

正 答	正答率	誤答率	無答率
(例) ア 「郷土かるた」というものがあることが分かった。	58.9	38.4	2.7
イ 全国にはどのくらいの数の「郷土かるた」があるのか調べてみたい。			
ウ ② インターネットを使って、「郷土かるた 全国」と言葉を入れて検索する。			

設問のねらい及び特徴

ねらい	特 徴
課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることができるかどうかをみる。	「かるた」について分かったことを書き、そのことから興味・関心を広げ、それを調べるための手段を選び、具体的な集め方を考える問題である。

おもな誤答とその要因

主な誤答	要 因
ウに「インターネットなら様々な情報が出てくるので、インターネットで調べてみたい。」のように、イを解決するための具体的な方法が書けていない。	情報を収集する手段の特徴を理解し、自分の課題に適したものを選ぶことができない。また、選べたとしても、具体的にどのように調べるのかが分かっていない。

● 問題

B6 (3) 図2のような囲み方をすると、基石全部の個数は、 $3n-3$ という式で求めることができます。基石全部の個数を求める式が $3n-3$ になる理由は、次のように説明できます。

説明

正三角形の辺ごとにすべての基石を囲んでいるので、1つのままとりの個数は n 個である。同じままとりが3つあるので、このままとりで数えた基石の個数は $3n$ 個になる。このとき、各頂点の基石を2回数えているので、基石全部の個数は $3n$ 個より3個少ない。したがって、基石全部の個数を求める式は、 $3n-3$ になる。

図2

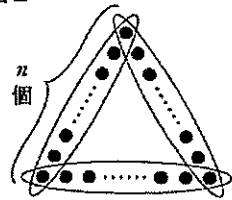
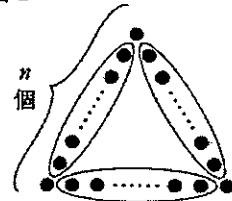


図3のように囲み方を変えてみると、基石全部の個数は、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができます。基石全部の個数を求める式が $3(n-2)+3$ になる理由について、下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、基石全部の個数を求める式は、 $3(n-2)+3$ になる。

図3



● 正答及び正答率等

正 答	正答率	誤答率	無答率
(例) 正三角形の辺ごとに頂点以外の基石を囲んでいるので、1つのままとりの個数は $(n-2)$ 個である。同じままとりが3つあるので、このままとりで数えた基石の個数は $3(n-2)$ 個になる。このとき、各頂点の基石を数えていないので、基石全部の個数は、 $3(n-2)$ 個より3個多い。	25.3	32.5	42.2

● 設問のねらい及び特徴

ねらい	特 徴
事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。	事象を数学的に表現し、表現した結果を事象に即して説明する力が求められる。

● おもな誤答とその要因

主な誤答	要 因
「正三角形の辺ごとに頂点以外の基石を囲んでいるので、1つのままとりの個数は n 個である。」のように辺ごとに囲んだ個数を n 個と誤って捉えている。	事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりする力が十分身に付いていない。

児童質問紙調査(小学校)一部抜粋【平成19年度～平成25年度】*H22～24は抽出調査または未実施

設問 (内容)		H19	H20	H21	H25	H25(県)	
学習意欲・学習動機	国語の勉強が好き	60.5	55.2	57.4	57.6	59.0	
	国語の勉強は大切である	90.2	87.5	89.2	90.3	90.8	
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている	—	54.4	52.8	62.3	62.8	
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話しの組み立てを工夫している	—	55.6	54.6	59.3	60.0	
	国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	—	66.5	65.2	69.8	70.0	
	算数の勉強が好き	56.4	55.1	56.9	63.6	67.0	
	算数の勉強は大切である	80.1	77.8	78.5	91.4	92.5	
	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単な方法がないか考える	—	62.9	65.3	79.5	79.9	
	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている	—	66.7	68.4	80.7	80.8	
	普段の授業では、児童の間で話し合う活動をよく行っていると思う	—	—	62.6	80.0	79.5	
	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	—	—	74.5	54.6	57.0	
	基本的な生活習慣	毎日朝食を食べる	94.9	95.8	96.3	96.6	97.0
一日あたりの睡眠時間		91.6	90.6	91.6	91.2	91.4	7時間以上
自尊意識・規範意識等	自分にはよいところがある	73.9	75.9	75.6	79.4	79.5	
	学校の規則を守っている	86.4	87.0	87.7	90.9	91.7	
	人の役に立つ人間になりたいと思う	82.4	93.0	92.3	94.3	94.4	
家族でのコミュニケーション	家の人と学校での出来事について話しをしている	69.1	69.2	70.9	77.1	77.3	
	家の手伝いをしている	77.4	76.7	77.3	80.1	80.8	
学習習慣・読書習慣	学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)の1日あたりの勉強時間	10.3	11.0	10.2	7.7	9.0	30分未満
		3.2	4.8	3.6	2.6	3.2	全くしない
	土、日曜日など学校が休みの日の1日あたりの勉強時間	34.0	34.8	34.2	31.3	32.1	1時間未満
		10.8	12.5	12.0	12.3	10.5	全くしない
	家や図書館での普段(月～金曜日)の1日あたりの読書時間	19.6	15.7	17.0	16.2	16.8	1時間以上

中の値は、肯定的回答をした児童の割合(%)
H25の 80.0 は、県平均に比べ割合の高いもの

生徒質問紙調査(中学校)一部抜粋【平成19年度～平成25年度】*H22～24は抽出調査または未実施

	設問(内容)	H19	H20	H21	H25	H25(県)	
学習意欲・学習動機	国語の勉強が好き	54.9	56.3	57.5	57.2	59.1	
	国語の勉強は大切である	88.8	86.3	87.0	88.2	89.1	
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている	—	42.8	43.9	59.8	59.2	
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話しの組み立てを工夫している	—	39.1	40.9	51.5	52.5	
	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	—	55.4	55.9	63.3	64.2	
	数学の勉強が好き	56.4	55.1	56.9	56.2	57.3	
	数学の勉強は大切である	80.1	77.8	78.5	81.4	83.0	
	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単な方法がないか考える	—	62.9	65.3	68.3	69.2	
	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている	—	66.7	68.4	72.6	73.1	
	普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う	—	—	62.6	77.5	72.7	
	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	—	—	74.5	65.6	65.6	
	基本的な生活習慣	毎日朝食を食べる	92.4	92.5	93.9	94.7	94.7
一日あたりの睡眠時間		63.8	64.9	67.8	64.6	64.4	
自尊意識・規範意識等	自分にはよいところがある	65.6	63.6	63.4	72.3	72.4	7時間以上
	学校の規則を守っている	88.0	89.8	90.9	94.8	94.6	
	人の役に立つ人間になりたいと思う	89.0	90.8	90.2	93.5	94.0	
家族でのコミュニケーション	家の人と学校での出来事について話しをしている	59.4	59.0	59.6	66.1	66.9	7時間以上
	家の手伝いをしている	64.3	61.7	63.2	64.9	66.3	
学習習慣・読書習慣	学校の授業時間以外の普段(月～金曜日)の1日あたりの勉強時間	10.6	10.4	11.3	9.3	8.8	30分未満
		7.1	6.4	6.1	5.4	5.9	全くしない
	土、日曜日など学校が休みの日の1日あたりの勉強時間	23.0	23.9	23.8	21.4	20.7	1時間未満
		13.1	13.0	12.5	10.6	11.8	全くしない
	家や図書館での普段(月～金曜日)の1日あたりの読書時間	13.5	11.8	12.0	13.7	14.5	1時間以上

中の値は、肯定的回答をした生徒の割合(%)
H25の は、県平均に比べ割合の高いもの

学校質問紙調査(小学校)一部抜粋【平成19年度～平成25年度】* H22～24は抽出調査または未実施

	設問(内容)	H19	H20	H21	H25	H25(県)
学習態度	児童は熱意をもって勉強している	87.9	90.0	86.4	90.8	91.1
	授業中の私語が少なく、落ち着いている	87.3	85.0	90.0	88.7	89.3
指導方法	児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	—	92.9	91.4	94.4	95.5
	児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	—	—	96.4	98.6	98.2
	児童に対して、資料を使って発表ができるよう指導している	—	—	88.6	88.0	86.5
	児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている	—	—	92.9	90.2	92.8
学力向上に向けた取組	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている	—	—	100.0	97.8	97.8
	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している	—	—	16.4	13.3	38.0
	長期休業日を活用した補充的な学習サポートの実施日数の累計	—	—	30.7	9.1	21.5
国語の指導方法	国語の指導として、補充的な学習の指導を行った	58.2	75.7	64.3	66.9	72.6
	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聴いたりする授業を行った	87.2	92.8	93.6	88.8	90.4
	国語の指導として、書く習慣をつける授業を行った	85.8	94.3	94.3	88.0	91.7
算数の指導方法	算数の指導として、補充的な学習の指導を行った	75.9	90.0	78.6	78.8	85.1
	算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った	45.4	50.0	57.8	64.0	70.3
全国学力・学習状況調査の活用	平成24年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させた	—	95.7	98.6	98.6	99.1
	平成24年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で活用した	—	88.6	92.1	99.3	97.9

週1回以上
週1回以上
5日以上

中の値は、肯定的回答をした児童の割合(%)
H25の 99.3 は、県平均に比べ割合の高いもの

学校質問紙調査(中学校)一部抜粋【平成19年度～平成25年度】* H22～24は抽出調査または未実施

設問 (内容)		H19	H20	H21	H25	H25(県)
学習態度	生徒は熱意をもって勉強している	81.0	87.6	81.2	95.4	92.6
	授業中の私語が少なく、落ち着いている	82.5	89.1	81.2	85.9	90.2
指導方法	生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	—	85.9	89.1	92.2	95.1
	生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	—	—	90.7	93.7	97.2
	生徒に対して、資料を使って発表ができるよう指導している	—	—	75.0	86.0	81.6
	生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている	—	—	86.0	95.4	93.9
学力向上に向けた取組	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けてし	—	—	98.5	98.5	93.5
	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施している	—	—	20.3	14.1	25.7
	長期休業日を活用した補充的な学習サポートの実施日数の累計	—	—	56.2	46.9	52.6
国語の指導方法	国語の指導として、補充的な学習の指導を行った	55.5	78.2	62.5	65.7	75.5
	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聴いたりする授業を行った	66.6	78.1	82.8	82.8	85.7
	国語の指導として、書く習慣をつける授業を行った	92.0	90.6	87.5	93.8	93.4
数学の指導方法	数学の指導として、補充的な学習の指導を行った	73.0	86.0	87.5	82.8	88.6
	数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った	31.8	50.0	46.9	48.5	62.1
全国学力・学習状況調査の活用	平成24年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、指導計画等に反映させた	—	93.8	98.4	95.3	97.1
	平成24年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で活用した	—	70.3	87.5	90.7	94.7

週1回以上
週1回以上
5日以上

中の値は、肯定的回答をした児童の割合(%)
H25の [95.4] は、県平均に比べ割合の高いもの